

日本看護歴史学会 会報

日本看護
歴史学会
第56号
2011年7月15日

東日本大震災のお見舞い

平成23年3月11日14時46分18秒に、発生したマグニチュード9.0の東日本大震災に際しまして、亡くなられた多数の方々のご冥福をお祈りし、謹んでお悔やみを申し上げます。また、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

この度の震災では、地震と津波により死者・行方不明者計2万5千人以上にのぼる甚大な被

日本看護歴史学会理事長 芳賀佐和子

害が発生し、福島原発の事故も起こりました。そして、震災発生後数ヶ月がたちますか、事態は未だ終息していません。

私たちは、東北の復興に向かってその過程を歴史的視座で見つめるとともに、被災者の方々が一日でも早く安らかな日々の生活を取り戻せるよう祈念いたします。

未曾有の大災害後の刻々の記録を ー共苦と共感からー

川嶋みどり

2011年3月11日、宮城県牡鹿半島沖を震源とした東日本大震災は、日本の観測史上最大のマグニチュードを記録した上、巨大な大津波は、一瞬にして多くの生命を奪い建築物を流し去ったばかりか、原発の機能を破壊して大量の放射性物質を放出するという前代未聞の事故となって、現在なお、多くの人々を休ませない。津波は、岩手・宮城・福島県の沿岸部を中心に1都1道10県に及び、死者の数は6月末現在で15,511名、行方不明者は7,189名であるという。災害史上未曾有であると言われるのも当然である。

あの日以来、今を生きる一人として何をなすべきかを自らに問う日々が続き、人生観までも変わった思いでいるのは私だけではあるまい。

現地に足を下ろし肌で感じた印象は、手に触れ目に見える物以外に流失してしまった人々の暮らしのありようであった。長年のその土地由来の暮らし方や個別の家族の人間関係を含む日常が、全て失われて回復せぬまま過ぎていることであった。とりわけ順応力や修復

力の衰えている高齢者や障害者にとって、これは生命を脅かす新たな要因でもある。巨大な大災害から救われたこれから先の生命を、何としても救わなければならないと強く思う。

そして、曲がりなりにも歴史を研究する者として、全神経を研ぎ澄まして、刻々の事象をつぶさに記録しておく責務を実感している。メディアの報道では伝えられない事実を、歴史探究者の五感を通じて発掘し、記録するのである。しかも、看護歴史研究者であるからには、その過程はケアに通じるものでありたい。たとえば、インタビュー自体がその被災者の心を癒すような。

ただ、一口に被災地といっても、被災の規模も様相も異なっていて、ケアニーズも多彩で重層的である。旧来からの行政区分や制度に則った方法では通用しない。そこに住む人々の思いに寄り添い、苦しみを共にし分け持つ姿勢を基盤にした柔軟な発想と人間としての想像力がより求められると思う。

日本看護歴史学会第25回学術集会の開催にあたって

学術集会長 仲里 幸子（元沖縄県立看護大学）

東日本大震災により被害を受けられた方々、お亡くなりになられた方々に心よりお見舞いとお冥福をお祈り申し上げます。

南の沖縄は、梅雨も明け30℃を超える夏になりました。会員の皆様のあたたかい御協力により多くの演題を頂き、心より感謝致します。学術集会は1999（平成11）年に開学した沖縄県立看護大学において開催致します。

第二次世界大戦で唯一地上戦が行われた沖縄は、

多くの生命を失い焼土化した中で、日本から切り離され、琉球政府は琉球列島米国民政府の施政権の下で、行政を行って参りました。看護歴史において他の都道府県と異なる点は、戦後、日本復帰するまでの間、独自の歴史を歩んできたということです。沖縄の複雑な歴史と共に歩んできた看護は語り継がれ、現在の沖縄県の看護活動につながってきました。日本で唯一の離島県である沖縄での学術集会には是非ご参加下さい。お待ちしております。

メインテーマ

歴史を掘りおこし明日の看護を拓く
会期と会場

○2011年8月26日（金）～27日（土）

○沖縄県立看護大学

8月26日（第1日目）プログラム

9:00	受付開始
9:30	開会
9:35	会長講演
10:30	特別講演
11:30	総会
12:30	昼食
13:30	研究発表（口演・示説・交流セッション）
15:40	特別セッション
17:30	懇親会

会長講演

「戦後沖縄の看護の歴史から学ぶこと」

会長：仲里 幸子（元沖縄県立看護大学）

座長：川島みどり（日本赤十字看護大学）

特別講演

「米国施政権下における沖縄の行政機構」

講師：石川 秀雄（元沖縄県副知事）

座長：大嶺千枝子（元沖縄県立看護大学）

特別セッション

「沖縄における学徒隊の体験から」

講師：宮良 ルリ（元ひめゆり学徒隊）

進行：嘉手苺英子（沖縄県立看護大学）

【一般演題：口演 第1群（6題）】

1. マリアの宣教者フランシスコ修道会の宣教活動と看護教育との関連
2. 戦後占領下にあった沖縄の助産婦教育
3. 限地産婆の事蹟 — 佐々木トメの足跡 —
4. 八重山病院の変遷と看護活動
5. 久米島における沖縄戦前・後から現代までの看護職の歴史
6. 陸軍看護卒が学んだ「換毒論」と「毒瘡論」
— 教科書内容の変遷と褥瘡看護教育の目的 —

【一般演題：示説 第1群（5題）】

7. 沖縄戦の「女子学徒隊」における看護活動の実態
8. 沖縄県で駐在制を経験した保健師の実践能力の継承と人材育成
— 退職保健師のインタビューから —
9. 公文書にみる戦後沖縄の看護教育
10. 沖縄A島における精神科医療・看護の変遷
11. 沖縄の看護の歴史に関するエピソード選定の視点
— 「物に語る沖縄の看護の歴史 資料集」作成に向けて —

【一般演題：示説 第2群（3題）】

12. 明治期『婦人衛生雑誌』に掲載された普通看護法の意義
— 現代の基礎看護学テキスト“環境”との比較にみる明治期女子教育と看護法 —
13. 明治期に4人の女性たちが運営した産婆養成所の比較研究
— 東京、新潟、群馬、宮城の事例から —
14. 伊達藩時代から続く「山神講」の実態
— 講員への聞き取り調査から —

【一般演題：示説 第3群（5題）】

15. 昭和大学で開始された看護教育について
16. 聖路加看護大学の共学化のあゆみ
17. 京都市立看護短期大学創設当初の教育と学生の状況
— 第1回卒業生に対するインタビュー調査を通して —
18. 土筆ヶ岡養生園における看護婦養成の入学・卒業式に関する報告
19. 第1区府県立全生病院における看護婦養成

【一般演題：示説 第4群（4題）】

20. 群馬県における看護婦養成の歴史の変遷 第1報
— 明治後期から看護婦規則制定まで —
21. 群馬県における看護婦養成の歴史の変遷 第2報
— 看護婦規則制定後の看護婦養成の実態 —
22. 明治期ハワイで活躍した京都看病婦学校第5回卒業生 谷村カツについて
23. 敗戦から1950年までの看護教育制度の検討過程

－厚生省と文部省の関係に着眼して

【交流セッション1～4】

1. 沖縄県の看護制度の確立に貢献した米国人看護指導者 創設期のエリザベスランディーン氏を中心に
2. 明治から昭和初期までの精神障害者に対する病院看護・家族看護の歴史
3. 沖縄の終戦直後から本土復帰までの臨床看護の歩み
4. ナイチンゲールに影響を受けた4人の日本人

8月27日（第2日目）プログラム

8：30	受付開始
9：00	教育講演
10：10	研究発表（口演・示説・交流セッション）
12：40	閉会宣言

教育講演

「記録なくして歴史なし －アーカイブスの重要性とその活用について－」

講師：仲本 和彦（沖縄県公文書館）
座長：高橋みや子（宮城大学看護学部）

【一般演題：口演 第2群（6題）】

24. へき地農村・都市地区における人々の健康と公衆衛生看護活動
－本土復帰前の駐在制度下における活動から－
25. 沖縄県における市町村保健師数の年次推移と史的考察
－市町村保健師に焦点をあてて－
26. 三菱重工業(株)長崎造船所における戦後の産業保健活動の歴史
27. 第二次世界大戦時のフィリピンでの日本赤十字社救護看護師の活動
－日本赤十字社戦時救護班業務報告書の分析を中心に－
28. 戦時下の鹿児島県における聖路加女子専門学校卒業生の公衆衛生看護活動
29. 戊辰戦争壬生城内の女性看病人

【一般演題：示説 第5群（6題）】

30. GHQの看護政策と山形県の看護教育への影響
－新しい看護教育を目指した山形県立高等看護学院の創設について－
31. 占領期における看護技術の教授内容
－「体温・脈拍・呼吸数のとり方」に焦点をあてて－
32. GHQ/SCAPによる占領期日本の病院管理政策過程における考察
－School of Hospital Administration courseに注目して－
33. 岐阜県における男性看護師の誕生と職務内容
34. 九州における男子学生の看護教育の外観
－昭和54年Josephine Barker“特別講演”より－

35. 産師法案とその要求運動の背景

【一般演題：示説 第6群（6題）】

36. 「クリミア戦争」におけるF. Nightingaleの業績の今日的意義に関する研究
－陸軍病院における看護の実現に向けた活動の特徴－
37. 「看護婦登録制度論争」におけるF. Nightingaleの業績の今日的意義に関する研究
－看護職の集団としての質的水準の担保政策に焦点をあてて－
38. 「助産婦訓練学校閉鎖」におけるF. Nightingaleの業績の今日的意義に関する研究
－医療現場における危機管理という観点から－
39. 「助産婦訓練学校開校」におけるF. Nightingaleの業績の今日的意義に関する研究
－F. Nightingaleの考える助産のあり方に焦点をあてて－
40. 保健衛生改革に統計的手法を活用したF. Nightingaleの業績の今日的意義に関する研究
－英国陸軍病院衛生改革に焦点をあてて－
41. 「看護婦訓練学校再建」におけるF. Nightingaleの業績の今日的意義に関する研究
－今日の看護教育における意義の検討－

【交流セッション5、6】

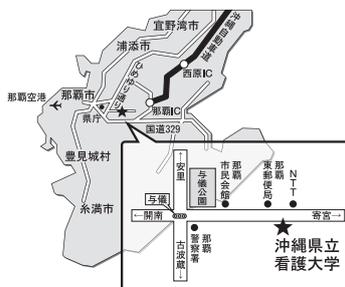
5. 沖縄の男性看護職の過去・現在・未来
6. これだけは知っておきたい
－看護歴史研究の方法論（第3弾）&分科会

参加費	事前申し込み	当日
会 員	7000円	8000円
非 会 員	7000円	8000円
学生（院生を除く）	2000円	
懇 親 会 費	3000円	

事前申し込み期限 2011年7月31日
（延長しました!）

振 込 先 ゆうちょ銀行 01790-6-88259
加入者氏名 日本看護歴史学会 第25回学術集会

★沖縄県立看護大学 交通案内★



○那覇空港からの交通案内
1. タクシー利用
(20分、約1500円)
2. モノレールとバスの利用
①モノレールで那覇空港より「県庁前駅」下車
②「県庁前」バス停より2番系統（識名・開南線）のバスで「県立看護大学前」下車。

《連絡先》

沖縄県立看護大学内
日本看護歴史学会 第25回学術集会 事務局
e-mail: rekishi25@mail.edu.okinawa-nurs.ac.jp

私たちは何を伝えるべきか

今年の3月11日に発生した東日本大震災および福島原発事故は、私たちの日常を大きく揺るがしました。私自身、災害看護の歴史を研究してきましたが、今回の震災の前後ではものの見え方が大分変わったように思います。

近代的な災害医療が始まった明治期の人々は、どんなに細かなことでも、そこから教訓を得るべく、書き残してくれました。おかげで、すでに明治の時代に、今日の災害医療に通じる重要なエッセンスが明らかにされていたことが分かります。

ですが、今回の震災で行われた医療、看護はどうだったでしょう。私たちは過去の教訓を活かして

第26回学術集会企画委員 川原由佳里

これたのか。また今、この瞬間にも過去の歴史となっていく震災の記憶をどのようにして残し、そこから教訓を引き出し、これからの社会や看護に役立てていけるのか。あらためて考えなくてはならないと思います。

第26回学術集会は、震災から1年をすぎる2012年の夏、8月26日(日)27日(月)日本赤十字看護大学(東京)にて開催します。学術集会長は川島みどり先生、テーマは「被災の教訓から改革へー私たちは何を伝えるのかー」です。大勢の方々のご参加をお待ちしております。

新入会員紹介(敬称略)

* () 内は会員番号 平成22年11月～平成23年5月入会

竹森 志穂 (10017)	西川まり子 (10018)
佐藤 幸子 (10019)	丸茂美智子 (10020)
金城 忍 (10021)	安和やよい (10022)
徳田 菊恵 (10023)	名城 一枝 (10024)
牧内 忍 (10025)	川崎 道子 (10026)
中井美英子 (10027)	永吉ルリ子 (10028)
大屋 記子 (10029)	水口 陽子 (10030)
大津 廣子 (10031)	熊田 栄子 (10032)
永田亜希子 (10033)	斉藤しのぶ (10034)
和住 淑子 (10035)	山本 利江 (10036)
河部 房子 (10037)	仲本 勉 (10038)
高宮 洋子 (10039)	加藤久美子 (10040)
唐真 佑子 (10041)	長浜 末子 (10042)
東迎 琴美 (10043)	伊藤 知美 (10044)
宮里 愛子 (10045)	仲吉 八重 (10046)
新城 トヨ (10047)	田幸 香代 (10048)
名渡山智子 (10049)	松澤 愛美 (10050)
和田サヨ子 (10051)	三河内憲子 (11001)
梶山 直子 (11002)	佐居 由美 (11003)
我如古康子 (11004)	備瀬 信子 (11005)
篠原 史生 (11006)	本村 悠子 (11007)
奥濱 杖子 (11008)	波平 幸 (11009)
根間ミツ子 (11010)	石黒なぎさ (11011)
小藁 祐子 (11012)	古川美和子 (11013)

編集後記

今回初めて会報編集作業に携わり、無事に第56号をお届けすることができました。ご指導・ご協力をいただきました先生方に心より感謝申し上げます。(ひ)

お知らせ

■事務局から

平成22年度会員動向(平成23年3月31日現在)

1. 会員数(特別会員1名を含む)	338名
2. 入会者数	51名
3. 退会者数	37名

会費納入のお願い

平成23年度会費(6,000円)をまだ納入されていない会員の方はすみやかに納入をお願いいたします。事務局からお送りした払込取扱票を紛失された場合は、郵便局にある払込取扱票に口座記号番号「01010-1-52185」、金額「6000」(ただし、2年分未納の場合は12000)、加入者名「日本看護歴史学会」、通信欄に「会員番号」、ご依頼人の欄に「郵便番号・住所・氏名・電話番号」をご記入いただき窓口かATMで払い込みください。

所属・住所変更や退会の場合

所定の変更届や退会届(本会ホームページからダウンロードできます)を事務局にご提出ください。

日本看護歴史学会会報 第56号

企画・編集 坪井 良子(国際医療福祉大学大学院)
樋野 恵子(順天堂大学)

発行責任者 山崎 裕二(日本赤十字看護大学)

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒150-0012

東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学

山崎 裕二

TEL 03-3409-0613

e-mail yamazaki@redcross.ac.jp

川原由佳里

TEL 03-3409-0185

FAX 03-3409-0589(代表)

e-mail kawahara@redcross.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>